研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-740		20-096	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Risk factors, etiology, and outcome of ischemic stroke in young adults: A Japanese multicenter prospective study

若年成人における虚血性脳卒中の危険因子，原因および予後：日本の多施設共同前向き研究

執筆者

Kono Y, Terasawa Y, Sakai K, Iguchi Y, Nishiyama Y, Nito C, et al.

掲載誌

J Neurol Sci. 2020 Oct 15;417:117068. doi: 10.1016/j.jns.2020.117068.

キーワード	PMID
塞栓性脳卒中、頭蓋内動脈解離、虚血性脳卒中、危険因子、前向き研究	32745720

要　旨

目的：

日本の若年成人の虚血性脳卒中（IS）の危険因子，原因および予後を評価した。

方法：

本研究は多施設共同前向き研究であった。発症から 7 日以内の IS 患者 519 人（16-55 歳、中央値 48 歳、女性 139 人）のうち、データ欠損者を除外し、510 人を解析対象とした。人口統計学的データ，危険因子，脳卒中の原因，および退院時の modified Ranking Scale（mRS）を評価した。臨床的特徴を男女間および年齢層間で比較した。

結果：

National Institute of Health Stroke Scale の平均スコアは 3.6±0.2 であった。高血圧（HT）（55%），脂質異常症（DL）（47%），喫煙（42%）が最も多い危険因子であった。肥満度、喫煙率、アルコール摂取量は、男性の方が高かった。現在の喫煙、HT、DL、および糖尿病の有病率は、加齢とともに増加した。IS の原因として最も多かったのは小血管疾患（145/510, 28%）であった。その他の原因としては、頭蓋内動脈解離（IAD）が最も多かった（56/115、49%）。退院時予後は比較的良好であったが（mRS 0-1、71.7%）、予後不良（mRS≧4）が 9.5%の割合で認められた。

結論：

若年成人の IS の多くは修正可能な危険因子を有しており、その有病率は年齢とともに増加した。若年層の IS を予防するために生活習慣の改善が望ましい。